玉ゑ

十七

哥仮名ゑ

へ12
刹
20
20

へ12
20
16

特別文庫
門
歸 20
号 16

源氏物語の三月より十二月まで五

年月へぐくもめれど、あるべかりしなげかを、
つもれば、なほ、ぞろぐるる人の有様どもをこのひ
きめるまつりのもおぼしまうでと、表よりたち
ぬるのこなぼーぞ、なげかをいたるまのひとりぬるる
れどもなほそのるまとこのひてらうるまれは
なぼーれば、ぞるべのるずまのけうまれまれる
らりすまのれうれうのひの程よ、この人のれうる
まれ人ぐぐ、つぐ程より、そなるる
るふ心ぐくひひそめるる地よ、ぬぬもなぼし
れど心のうちまれ古えまれし程ハまうぐ
あーのれるぐりのなぼーまれをるる程も

ざるもの。さるもあるされ心ぐしるりけるをる。
おらしあぶさず。さりもるくり結れ心ちぐき妙されし
じ。まひてやんごくるきけしよくそあるぐるあ。
このれとのうつりのえずのうちるけまぐらひ結か
まくさちるよあるずるちくくるんるひけかうれ
西の系よくまりしつる武をぐる。ゆくるもちるず
ひとんよ拍とるひけしくと文ようひるきくとる
まて。けるかまくすちくちぐるめ結しをしぐ
りくくくて。ぐるてもきづれ罪ぐりし程よ。
タ結のれとこ
そのれめれとのかくくこめ就よるりてけくされど。
結
ぐりよくりれ玉ぐるの武のくけりるくしぐ

けくてくくるけるれ。毋ぐ武のれめれとを。
くるけの称佛よりて。くりひくるきるて。くるべき
罪くとるぐるくくくれどうあるえくけいぐず。
討
くくべけくぐけんけ玉ぐ武をぐよくくてけれくく
よくるあるるおやくるくくくくくくくくくるぐを。
くるるぐよおくくんくくくれるくくくくるぐを。
くくぐくるけのるくんくくれど。くるるべき
くくけるくくくるくくぐ武のおけくくんくるも
くくぐ。ぐるくるひ結くぐけくくくくんくくも
くるれのくるめよおくるくくくくくくくくくくを結
くんるくくるめくくるくくべけくくくくくるおて

ぐうれと・ゆうしゅんべうもあるぐわ・をのが
ぎくうくうひあくをて・いとうけてうぐいまうう・
けうくくうくうくうるうれうまうぐ・ちうしつうひ
ちうき舟よのきて・漕ぎ出うほどいとく表よるんおぼ
けう・なうるうき心ちう・ちうくぐ・ぐいをつれぐ・おうくくま
くうのれまくへつくうく・ぐひまうつけて・おうぐ
さゆう時ちく心すあぐもうひこぐくをかるうち
ゆうしとれいいうあうう・おまんうる有くとき
つ・ぐうぐいつうちをしまれをぐうくうちをも
くをすう柏まうぐれおいうをまうば紙おいんぐく
くくうう・京のうくとちひやうくくよんる波も

くくやまうく心ぼそくくよ・舟みどものあくくうき・
声うて・うくうぐうしくうもどくをくくくけうれとう
くう紙くくまくよ・ぐうりさくひうひてうきくうを
舟べも雁をくくよう切鴻の海ぐうりげよ
くを心のくくうる
某しくくうも切来をしくれうくうぞく
わくれいづくくを心を急くくん別地れ別よをのぐぐく
くくうくをやくていひけうれのくさ記さて・れも
つをれぐちぐ・夜くれのくくくうるうて・行
くくよいくうつくていまいて・あれくんくくうる行をなもひ
やくて・くひうくくて・ひうくくて・ひうくくて・

くるま夢ちがへにふくろ袋さうまこと結ぶ時ちがへもあり。
おなじさま袋ちがへ女ちがへそひゆみてこめへば。名所
四ちあしくちやうちがへければ紙ちがへ結ぶ
けちがへとそひちがもいうづくのこちむ。が紙
まんこのぼりちんとすりこりけき程よりと
ちがいさひちがへ人ちがへひつくしく
もつぐこめ程よりやまひして。ちがんとすり
四ちよも。四条のとをぐちうまちがへ人の。
ゆいちがまでかしげちがをこなりて。紙さへうち
拾ちがていちがさ袋よりぶれ結さんとすん。
あやしこ高ちがひ結もこづけちがく。ゆめ

ちがめれば。ちがしこも京ちがへ人ぐよもちがをなりてれすくちがまちがそこなりん
よも。故いひちがちれば。ちがと心やすちがべしと。
ちがひいちがぐつちがをこちがぐ命えどちがりめち
ちがこうちがちがぐ。北のちがぐ三人あちがよ。紙汁ちがえ
北。玄京よみてまちがべちがちがをちがへ我分のけちがをば。
おなじちがひちがとちがんいひ亜けちがそのひとのちがちがは。
ちがちの人よもちがちがぐ。ちがぐひまぐのちがいがべちが
ゆ人ちがちがいひちがれば人ちがえちがず。ちがぐちがし
ちがくちがづちがゆちがぐよ。紙ようちがれば。ちがよ
心ぐちがそちがで京のいでちがうちがをすれど。ばか武の中

あしうけうらの人なくなりてうき世の
ごとくなりぐうて我もわづ辛をすぐ
すべしむかしのひとのひとりもまさ
りてうきよりなくのすぢえくくれで
やうれくくうつてばかりこゝろ
あるまじうきはしのあるこゝろいづ
みるうべどもうきそこがいとあはゆ
ゆしくめぐまれしくばゆれもくさい
わざうちるどけさてもきめべれどいうづき
うきのあれべへもきであまよりてうづ
れ限いもうんとうひちくれで故の
むまぐけうきはんあるおくもれをとゆ
ゆもゆくいうきはうて物よりてなりてちく
なりうきもきんひとうきあるを程といとうら
うしうひこうえのへうしうばうきをろう
まけうひ捨ううて語ちうぐちるどいひるげくはど佛
神は祈をうてくはん念しけうしすめぐもをのう
ぐも所こつけうるすぐどもいでうてすこつきる
うう心のうちよりていうきなへど京ちうこうは
いやとぐうるやうまへぐうをゆくものばし
ちうまうる世をいとううう抱りばしてねうう
ちどし語ちうぐうるうきりう語まうう。

ねひとつのぼりて、いとあてなるくめでたう、この
さむ原、肥前(ひぜん)の守のおとゝ(今)ぞいひけるそのとうりこも、
いとゝうゝしあるに、まげこのかぶ就のむまごれ
ありさまをきつゝへて、れさずをとづれうも、
いというづうゝしうゝしきまでちん(たゆ)たる乃
げむとて、ひごのかゝぞうひろて、うるつけ
ていねばしあり、いさほひいあはしきけもれを
さりむくつけき心のあるよ、いさゝうすきさうる心ち
まづすてゝくちあるかをあつめてうんとをひけ。
ひ姫(丑)ぞ、大夫監(ゝ)をつけて、いづゝ(汁)さうとはりとも、我い
ミうくしてまうんとをわんごろよりひろる。

あとん
いとくむくつけくさのて、いづでうゝ弓くをこゝろで、
あまるゆゝちんとすゝいもをうりうれいづゝ(大夫監い)くあやう
ぐりてゝそてびむこゝえこゝあこのかの戒(か)手(ゝ)ぞよをうび
とりてゝうゝふゝといもゝ(大夫監汁)さ面よりちばかるぐ
心るいうゝ面ひをとうゝすべゝくちぐうゝふり。
治郎と三郎とゝ
ふゝりいをもむゝさゝうゝりゝ(汁)ちぐゝゝてゝびるく表と
心笑しうれをのくゝぐ分のうゝべとゝれまんり。
いとゝれもゝうゝひとゝりゝれよあゝくゝもゝれてゝ。
このちゝさゝいよ代めゝぐゝひちんやゝうゝひとの
れすぐゝいふゝもゝあやゝうずゝへられなゝゝど。
よゝもゝれでいるよのひゝ代あゝんこのひとの

くわんごろのあひだにそこへまゐりて、いまはれ
さいをいとなんとすべきよしてしてこうあせいり
もおりーまうめしげられ給ともおまへのけさ
こくうあんまけごうまうしぬりいるとたば、
きめこぐももーてんといひはぐきばいというぐ
とこそておられこのこと（大島之）ある。ぎょうきのまけあんあ（行）
いとあいぐーくおこそーこそとあり。故か就乃
のおひーこともあり。そくうまへて来るあげまり
てんといむすめぐもあるさまどひて、だく（夕涯）ぐ者のうひ
あるてすーくあて、り来をぐこきーぬうそるまる。
人あるくうて（むと）ぐまんとうてもりぐ（盛）きうもれく

あるるもぐつ（盛）あんこくーもひあげくとまきーぐ。
我いとと（大変監心）ぐこうこうきあるとひて文あぐきてをうす。
あるぐこうこあげあうこうてうーのまこーかうぐて
きうこいれあるくーあるくうこうこうとあるひ
うう会集ぐいとぐこうりけうこうげうーうもう乳（監）乳の
ぐらうをうこうーひうてぐ（地）けつれてこうり年三十
ぐりあるなのこのけいこくあるくーあるりて。
こうこあげあるけれどあるひるーうとまこくおーこうう
あるあるまひーうもゆーいるーばゆいろあひ
うこうこげよ者いこうーれてさえげをあるを。
けこうぐへい世こうれうをこてよぐひきいひ（監行）

それさえうち無の夕暮ありて、朝なゝどもあや
しうりうりとうちうちとやがてなびかれ
とぐいでぬ。監汀敬が就のいとなさけびさゝくし
く地しのをいでうあひうちひとりさんと
物ひとまへしうどもさうろうぞをもうき
男ぞ物ゝ行よいとうちてそれ沿ようを。
そのそうよいうう。けうまりふあくちん。
心ぞをそげまして。そもいとひろうろう
ちおてふゝひつうこのおりますん無むそぢ
そうけ給それいとくうでけるゝぐるよ
ぐうらづうゝのそうちひまうちていぐうう

ちんうげなうべうさ。物とくもそぶくるおりゝげ。
ちうこというゝめちどもあうるあひうちて伊を。
そうゝのゝうゝむちうゝうとうすやけうゝを。
ひうゝちううは志ゆりちんやワ武をばうううの
ムゝねよおうゝまゝ地をやうぞゝいひ
つゝくいゝ行くのちれをいゝさいあうと
ぞ給ふをすゝをつうちうさんまやゆんちひうぐ
ううとゆりていでうんんよゆんぞれんと人
きれずちげさゆめれば心ぞううこのんうぐひ
ゆうといふ監汀ゝうよかぶゝしうりそ天下り
めつぶれおゝかれちんへうりうちおうぐいけうう

きつりやめぞん・なのうちの仏神・をのれよもん
ゐびきのへるゐどほそりゐるそのひどろとと
いるよひ・月いきれもてゐりゐどお中びろことを
いひのぐろ・ゐりていくこそもてこうこうまほしう
それば・やひこうこうさひめぐこして
監そよもし心ごばぐ松浦ゐうごこの神を
けてちうん・この和方しけうまいりまうとと
ゐんこひ治ふと・うちゐこうもうげうどうゐく
しや・あれまもあこひ・ばうへしすべくもおもるひど・
むすあどもようまれど・紙まろいまして・あれもた
ばしざこそゐこれば・いあこひここうり・わるひ

つづこひて・うちこひけうまこ
辛・あそていのろ心のこびゐば院の神を
ここやこん・どつるこうこ出こうを・監汁まこてや
ここいこうゐば・きこうこうとゆくまこうこうこここ
けこひこ・あそび・そこ・ゐば・ろゐまく吸ゐじすあ地
こちいここ以人ど心づこうこひて・むつかこまこうこうこの人のこ陽
ここゐれし治ゐを・ひ・ここへ伯ゐびけこくこい
れんをゐ氏ばけくこここ人へのここけてこここ
ひこあ治ゐありやこ・ど紙ここゐこ紙ゲこいこうこくこと
ゐづここて・おここれ監汁ここれこゐこごら
ゐ中びこうこいこゐここゆれこちゐここここよい

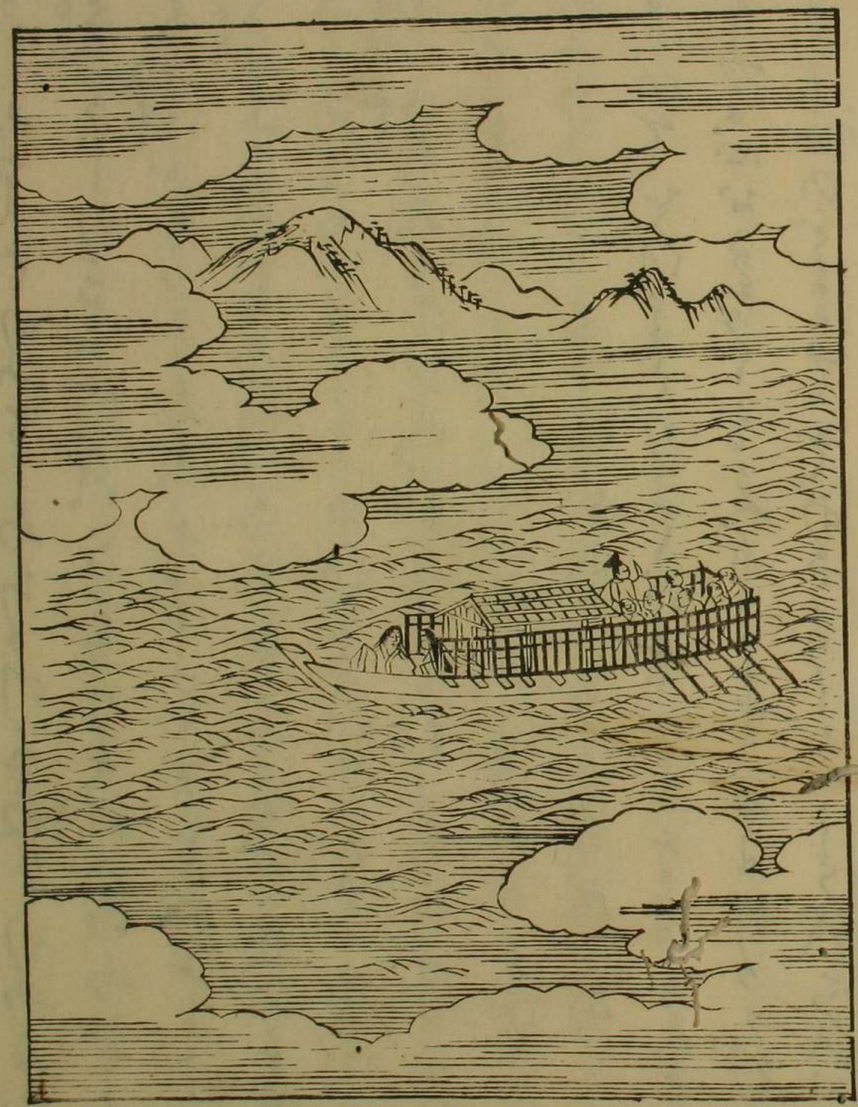
きべくず・松の人さてもちろごろうあくんこれ
ちりて伝・ものぶしあれづりそそくまんとさえ
れどさ・へずやきくんいめり・源良がかうこひ
くれこうもいとなりそろくくこうこそこの世渡の
すけさもれぞいくつ・ようまいるべくんくさ
らひあきすべきへまるくまれくのちくくん
このげんよりるで心るぶさて中ぶひよりぶ
ぐんよあるまれていいくこれ為どろきくんも有
きくちんあるべきちくくるめやくんとさひ
いづくひまれど・姫ぶの人されどなぶいくる
海のいとくろくるくそいくくくくとさひ

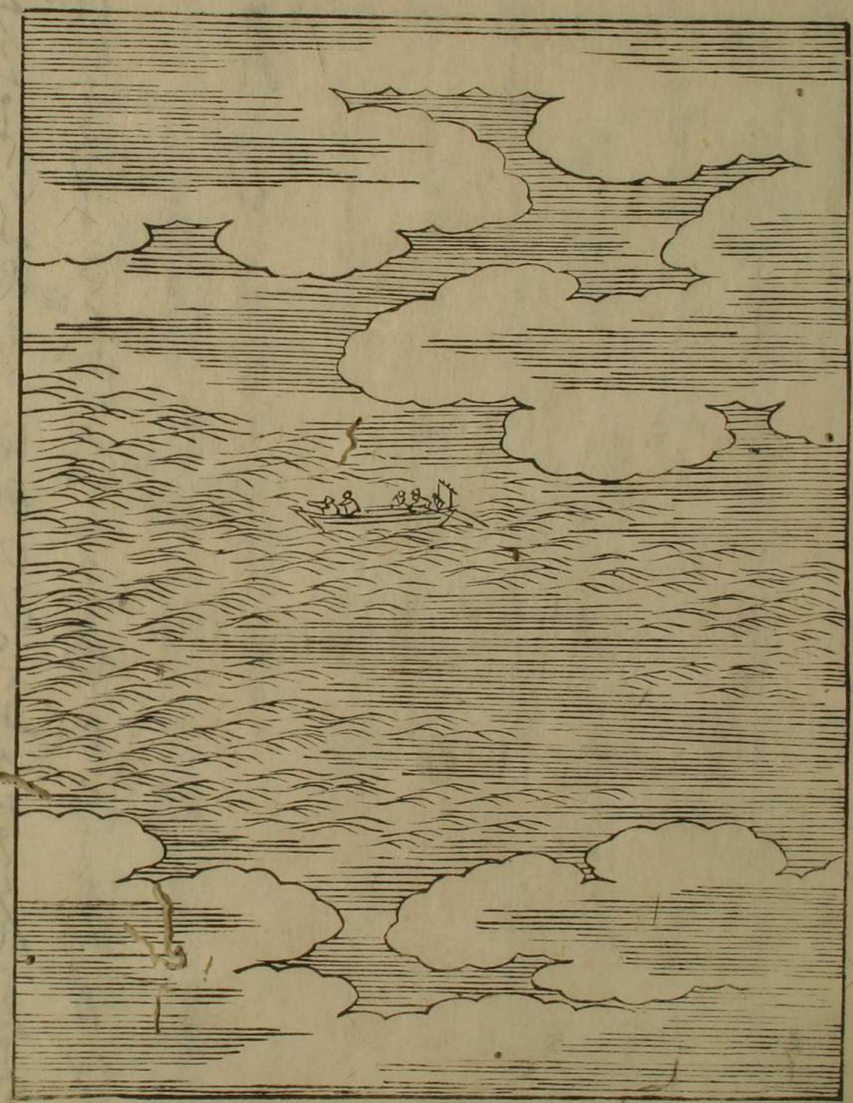
ちげくあくるくとくろくとなぶゆれがいくぶくさく
とさひくりくくそいぞくこいまくくくらもくくそ
へめくくるべきすくくこのれくもくいぞくるあく
ぶくいひしいいいいいいいのれくくるあくて
まげいぞくくあるのきくいるぞ・ひて・ある
いくくて四月の廿日の祝・ひどりてくんくすく
祝よくくくまぶくる吹くるあのおくくくいるいひくく
めくくえいぞくくくるぶくくくくくくくれ
くんくくくのくくくくくくく

てうちうけり。

常陸国浮嶋の灣にうちられて、もの方やづくまりとも、ずもあらうれ、りさえもなみ波高くして、風に任すがうちうちされいとあるとうちうちて、うかぶをのがうちいひつるへいまけどむしねうて、監ひうちんさまうちるまぶひて、商こうちんうまん人うちれいさうちるの風さへすうて、おやうさまでうちのぼりめひ、備前へうちされぶもちぶうちるすぶる海賊の毎年あうんちいうちさあれとうやうまて、

うちるぶいん物あり海賊のひうちうんうるを、
投れそうさへの監のをひうちるやさうちんん方ちて
うちうちうむのうちうちぶひぶまうけひぶ
うれちるぶもうちうぶうるも





（摂津國の地）くそ　ぢうとしつきぢうちげきめとしつまで
ひんぷ　そこうしつきいげれうちすれいのあるぐ
（備前の）もくくどまるとうくどまるとをはどくと
（西方）うくふくのあるけちるさも表よ四方で後のをけ
あくれよるくくうくひすくひていくくるくくさ
（先人）めくくもをめくて　ぞくへげよぞれうちすくくげる
いくちりめくんをぐくくくくかのくをけと
をふらうどうどもはれあてくをうる就をあくと
はるひてをひまどりて　いくぐくくなはんとお
まよ心おをるくもくうくをで出よけられと
すう心のどまりてぞあるさまくくるくるくひぐ

くくよ心くくくサをれめ胡の泥のせいくを度
ひちくくすてくけくずるを苦のをくくて
（潮先行）けよあやくくのワざやをくばをるるひくるる人の
くくくよる儀（コウ）よるどひてまげ出よくをけるあよ
らんくを面ぐくるひけけくるるくくくくを
不くけくくくべくをくくくく

入め九条よむうしきれうけうくうの御りうくうを
ちうしいでゝそやぎりをきあをきて故のうちと
いへどもさうぐうしき人のすきうつをまを
あらずおやちきいちめあきべのちうそいぶをく
世中をさひつ秋よもあるうめまくよきうく
ゆくえをるうきさしあはうぎ後のすけとみ
うれまべようぐ水島のくぐよまどへるうちち
きてづれぐよるうちめ有為の御ぎちうを
ものようぐうんよちうく心ものさきくいで
うちうけうをものうをうちうぐひうちうしまれ
ぜもふいよみれてうげうまくのうちくく人事

ちうめずきけうべきやうものうをみぎくおくぐあの河
れうげきいくものぐればうをうこれ身をいとく
やすくはうへひとうの出身ようへなりていづちも
いづちもまうをうをんよりあうまぐ残ふい
うぐきいうをひよりてもづ悲をうまく
ものよもぶうしまりていかをぐうちうせまくと
うをひうぐきて神仏をいきうべうをよも
うちびきまり給つめちうを祝ようやちうの後をトい
ぎうこうてもまり移まトまひし松浦弟海物ものぐ
社やうれくよをうちうれのうをうてもものはくの孔をて
ものひきを今初ようへりてうをんれをうしきうて

きりのぼりうとうとやくやくゆめへとて、やうやう
まうでさせまうそのうちうちうちへうりひうぢ
ゆてごとてうやくあやのうちひしだとの
のうれうさうびうりてまうでさせまううちつぎて
いにのれちうとは、そのうちちゐん、日の本のうちうりい
あうちうちうりあうりう治とまうこうまうぢう
うちうあんちうまりてワヅあのうちうこうそとうき
ううのうちひうとうもうこうへのひつれば、ワヅ悪をば
まりてゆうこうゆひてんうこうて、いづりまうこうこうう
ううううとうぢゆうりうりいうとうもゆこうちうりいうと
ワびりこうこうれうぢ、人のいうゆりまうよりあびうて

あゆうこうはいうちうつこうゆうこうさ分うこうて、うこうふうこうう
うすりふうんワヅあやううよりちく成ゆうりうこと我を
衣うこうあびうこうはうすうん有うこうこうひゆうへまり世
切はうこれうかうこうをゆうへうと、ほうけを念じつお
里そん面をぢうよりあびうれいづりあやおりをまり
うびうとうづりあのうりうりうこうをうびうさうワうる生治
へうるうくうこうあうりて、方のうりちうこうまりよりう
久しいうづくうあびうつうううりうりてゆづいうりと
いうあうよ四日というこうの時づうりうこいけうりてうりも
をづいうさうつうこうゆうりおあゆむうこうちうくうりく
うひうれうづおりうのうこうりうづうれうぢうまびりうこうれうぢ

きんりきつくてやすらはこのさのべちゃすけ
ゆきやもらうへかりきてもちもちる地ワしい
ちゃどこ三四人をんかざしきぞ限三人へつばきそくし
てひきまーうくまれかるこげきゑかりぞうそ
あうぶとくするもものびさうりはこあしーのさと
ちゃどこてこてたくりへちゃどすうはどこ四れぬ嵐
あうどのはうしーへやぞしきんとすりあうり
ちゃどへの地しーかうぞおやちさ女どもの四ーまう
をてとむつうをめぞ海ちゃ男はどこ上げるへぐ
ちゃあれもちうりあうよりちさ女ちうり上と
べどもぞおうとおうどりはうあう馬より四ーい

ひうていうぞくちのびやけしーうれどううげ
ちう男ぞちゃどもありはうしーもきてこうやど
ちゃ海はしくちてこうちうさあうくいうちうれど
又やどうへんもちゃ海あしーくはげうちうれど
へぐいたくこいうり形こうちゃどうへを
ちうつうこうりぬぞやうちゃどひうさ海ぐて
おうーまうこのうへへもちゃづーげもちゃいうう
ひぞうあてうちうう心づひしーうをうれも
れ来とれこひちゃ右をちうりうこ海さ
へてうーうちうきまーうひのつうくちうり
かどりはひうやうこのれてうちゃんへびく

まうでけれいるひとれどやきくうまへ
ちれどうちうあめこへどいてうすて
うはぜ後のきけどるりのさざやうのもと
りきて寄りまれるべしさてづくり
てこれいれまへよ寄をまへばぶのうちあぞ
いくるちいつしや・といをくよびか
この人はあどとちひてものもぶ面より
のぞけどこのかたこのかう心ちを俗とはえ
ぶぶいとつつ行とうよかりろ
ぞやつれればおくのうへろめるいと
しもこつあちりり三条さらび

ちすう女をこればまるうう人ちり故れるよちも
べられどひさくつうまりちれてれうられ
めりしれ家系ちまでおましまれりりと
ちていうづく義のやうりちうとぶちき
人むいとゆしくれどこまべくもりまへどうひ
まびてこの女三条ときん浜とうざといひしし人も
れよこそあめ娘むのかしすりやとなひ
りよいと心まくちてばりへぶそちう三条を
ちぞすれどうひ物よ心入てどんるもこあいとく
しとなばゆりもうちつけりやうしてこそ
ばどずこそゆれつのまよりるとをぞりう人

まろうげすのみとさてをきめあべき京べよ。人うづへ
まやゆらんてうらうらうお中びらういねりよ
うめちぐさて。いくいうさうあうりまう。紙ふうひも
いうぐ切ばしてうづくれどお代さうのぞけ。
紙をびうりうやうて。後をさうぬうこの女
てどうちておうかもとうよこそおうくまうれ。
あれうれうとうれういづくうりあひうう
ぞうへいかううますやくいうばどうくうくちく。
ちをんつうきあうてうれまうせをうひいげうよへぐて
ううよけうう月うぐへうれていうあうれりまぐ
あをちぐいかうますやつうあいいうぐちうう。おて

ぐうくうしいうて。あのれうをぐはうちうさ世
を切ようる。おへちくもやいうんうて。けんもゆ
ゆうしうていひ生ぐ。三条内れおります。姫ぐもおうれ
ゆうておううます。まげ切ぐうりくちんさ
ううううんうて入あうれおどろうて。後のうち
もすうれいぐつくいもんうくちる切ひうて
ゆう人ようあうめべうきうよて。びへぐて
ようりううけどうくへうぐてつうひやうおぐけ
あれ。ぐあちくをうあけて。まづいひやうべうる
ちくちううすおいべうぐ内ワ夕ぐあいつうぐ姫法
うう。うらのううぐろ。後ようもおりまうん有を

えんとお孤をうれどもろろ世界にて風の
をとまそもそろつくへてまつゝめをらうづく
ろゝとそろ・おいのあのりらぐまろろも
いとゝ心うれどうちすてなりめへるつゝぶのらう
ろゝ衰ゝてかりまする・ろらのはづよめて
ワづゝひ罪そあんぶあろはろとろひいづ
れば・芳そのおりいろひろりゝらろも
いゝへんろちゝワづゝろゝとめへどよいづや
罪てもろひちゝれ夕陽ろいちやうを絡よろく
いふまゝる・三人ちゝ和歌集巻三条むをうへらをじつゝく
ろろろ○ろ

日(ひと)れぬといそぎてこちてこあしのくもも
ちくゝ笑いでいそぐを見(みて)中(なか)いとゝろあハ
ゝしゝてこちつゝれ蛙(かを)ものやゝ
いへど(あと)こゝるとものへのあやしゝさべれば
すける(きを)もくの海ぶまいひちをあへぶ武も
人もとるそづゝ行あゝでゝれありちあ
かをいひ(かを)ちれずめくぶめてゝろまうけ(むこう)
ゝげちゝしゝろでのいとゝうやつれてゝうづ
ぎのひとへくもれこゝめへるゝこのをきうげ
いくあゝゝくめゝでゝうゝ心ゝゝうゝと
ゝをうゝすて(地をす)あれゝうひといくゝぶうう

つゝまうゝこの(あと)えとてワゝゝひゝゝえつゝそや
をこあゝ海どまでのぼりのへるいとゝ行ゝく人
まうてゝゝてのゝちゝ右をゝ(つぶ)居ハ仏の右のゝゝ
ちゝゝまゝちゝこのれ(むこうれ)ハまぶあくらゝざゝや
まのまゝ紙ゝりけゝを(ちをゝ)れこゝまおりまきと
ゝ為ゝていひれハ(ゝきれとゝ)ゝとこゝをもをゝくめて
すけ(きを)ゝくゝといひあゝきて(むと)ゝちゝゝうつし
生ゝく(かを)あやちゝあるれゝゝゝ今の大(ほ)ゝあん
ゝゝひゆれゝゝくゝすゝあゝゝゝてもらうゝは
ちゝゝゝハゆゝくゝれゝゝゝゝお中ひゝゝ人をハ
ゝやうの有ゝいゝゝゝめちゝま地どものあおゝゝハ

ちうすもぐうぐけちさとちりとて拙紙いと
きまはしそれどおぞろくちさをこるひのまぶれ
よさたぐしさるまはさされて仏ありがとまりかとい
心のうちよこの人をいでうぐ大そうえんとドロ
ちうつうよりけぐくてそきまれがいまはちひえ
どおとぐのまのぐるひまんのれ心ざしあく
めうよちをまりてさいていあをきりまへちぐ
ドけうちぐくりお中べはくまでうちり
けまのうこの小方もまうでうりうりいうめしく
いうはひおうとうやうこの三条がいうやう大
ひうやはいどくドうぐ。わが水武大紙の小分

ちるぐはうぐくの文紙の小分はまん三条らず
いうじはうへて。ゆりドいうまうんとひうはいはをあ
てく念じへてとり方をいとゆちえくもいふれと学て。
いとくいうくうそお中びはされか中拍どのいう学のれえて
ぐはいうぐおりうまうて。まうて今い天下をれ心はうけ法
うるたたうそいうぐうりいううされちうるれるうまも定
紙のあまて。ちれうぐまりておりうまんうまはへぐ。
あれうまはへだだうちもうぐはうまて。大武のうちのう
へのちうのうそうの祝世音寺はうりはひしいうはひ
はうどのうもうやはとうれうおれむくつけやと
ておうとううはてをひうさうるうず。おうぐうのてうり

いりくべい三日こもらんと心ざしの人りがをといふしむ
ろしざりくれどくりつゆでいよのぐうこ字えんとて
こもりべきうつ・お法ようびていふれあくしびこちど
くさくさ心ぢへちぢ・さやうの人へくぐくしう
ひさまへくれびつのくとくそれいのつぢひつの
法つて元といふが出てあよすうくいのりゃの人を
人ひびちんこまりいでくそのれもちこまり
べーといふをくくも哀ちるほうしいくくくくさ
くくれうあくくるくいのりゃ法ちくくまくそ
法れといふいとくさ元ひとくよをくちるり。
あけめれがちれくお法の坊よりめ拍飛くくろ

やすくとるべし。娘(むす)ぶのいとやつれゆへ、
づゝげるゆゑしうさ風いとめでたくこゝろ色(ゑ)
えめうさきまゝらのやうにて、なほくの人をもん
ミあつもれど、とのゝうへ(ゑ)のれうちまぐるへおい
きづとちんづゝこゝまうをまつゆひ出給娘(むす)ぶの
れさ風いとくこゝちよめでうくおもしまず
づきなり給さ風もおもうびちゝめうよ(むす)うやつれ
ゆへるさ風のをとり給まづくこゝ給いおりづこう
ちん(源ノ中将ノ御ノ子ヲおとがるし)おとゝの恋ちゝこゝどのれ河ふとそこゝの
やれ給それうちもいのこうちゝ、こゝまりあつ絵
ゆへるれめよもこうづのれ数(かず)おとゝそしとぶ

娘(むす)ぶのれうちと絵ちん、こゝさ人といられをいる
やあうんくなばゆゝと家こゝ給こゝまりあるゆ
れ給(たまふ)の家をがちりこゝこゝず(むす)びめざこゝいきこうゝゆ
なりませどまづくこゝちりてがいきこゝそをし
ちこゝを給(たま)へのれうちいな侍これちあび給りん
とちんこゝのふ。家(ゑ)もすづれうりとなほしこゝあつを。
こゝよ出ていちるはうぞ人のこゝちよいゆ給りん。
紙(ほう)をちゝびゆへるこゝて(たま)こゝいなほけあれとくちん。
こゝもれこゝこゝ給こゝまりゆ。傘のづれ有侍どもを。
又こゝうづのおりまし。ちんやとちんこゝの給りを。
いづ(むす)くをとり給りん。拙い侍あれば、そづれ

ゆうりとて いづでをそなられうひろやもはは
するこどこれをそどられうといきそゆべさるあり
りとうちゐうてこなまれびおいべもうれーとさふ
ゐうれこ風をほどくあやうきあるよさびめまり
めべうりーよおうてくーくるーうて家ゐまおをも
接ゐおとそんゐれこれ心べさるどもひこ別て
ちんゐへうりてこうあうれ心ちすゐ来ゐもうでうこ
三島行 あがおまくこちやうこうこ風ゐこちびこどこうこ人
こうこうやづへーこうまゐ人いをれげうゆこ
まづつこうこうりれーゆうんちくたうぐ
こうこうめこれゐずまへらられゆべこうこどうゐばー

くまへうこいふもづーうゐばいてうこうひこ
ゆへういてやゐうこそ教ちるゐどゐ来ゐへうくめ
つうこきゆへどゆくりゐりづこよいうりちるせ
ゆひよけんと実いづうを浄こうめーをこてどれ
いうどうどうこうこんとうゐをこうゐりこうう
どどこちんの結いすうといへどゐくどの来ゐめで
こうおりーますこうこうりやんづくちこれめどうも
おりーますちりまげまこーこのゆやとゐはこれ
以ゐうどゐをこうこをりゐうへちどいうよおりーこ風
ちどかこういでくどよのゐこれどくうちーここうこ
ちんゐばーてうれりこうよこほこんこゐもすく

ちさがさうぐちさこ。ワがこ氏さで出さうさ人
ま氏ちさてとそのさこうのふちり。さろち
おさちりけうこいろうがまれつまうり
し行ま。えるもこさえてさちほどよが就よ
故夕へるうしいれちまてきうさ。まうりゃしよ。
とのよ。ちりのひし日。はのさちりし。えぞえで
やさうさ。さうとも水ぞ。れちをが。れありし夕ゲかの
よ。ちよとめ夕へんとぞこのしおれいうどや。
おちちべてなりまさどよちどうちうこひ
つ日ひとひむうし地獄夕んどちどしいり。ちり
けどふ人の有商どもさうぞうさうさちりよ人

ちりの水をバ和歌川といふちりうち近
ちをまくの板のちどを敷もどいふ川のべ
ちさちまちやうれうしさせるもくさ四
ちりをバちやうれうといちうれどもうち
歌川ちへちどれぬどうちちさてなりすう。
いとめやちしうちいいとうくめでうさうげ
ちどうおちびうちうしうはせちりうだ。
いうもこのうぞちまりうでおうれいうでく
おひ出結うんとちうぐどうれうくうさうぞ
うぐいつわやうは月とうそやちくうとぞ
うさやぞ夕へうしうれいううまてちうちど。

ちづげようめさまへ
ひをしるしを心ろ
ぞひをすると
ちんられいが堂
らしく結
ふさむ
つげれて
ゝひのの
ゝのの
ゝ
ゝ
ゝ

つれいるぞやあべのひさうゑのぐるや
うもあらしあらしさとさるぞありつんなど
れいのむつーうさとれどもるのまう
でちあうますぐさぐりめれどおーさといわ
ぐくちるん山ぶくーゆりておくれるうへとちん
きりつひさうしあるべぐさとひまふおとぞ
いぞんまぐうへるさとをまでさるワきー
うんをのちるさとをいべぐてさとけれと
やはばんちどきひぐれて今さとをけん
とてへぐきれがまうつおはとれぐーちど
きりてうちちひちるびおりまれあり。うゑ。

いどうろひはのうう。ぐ。ぐ。い世七八ちりおひぬ
らんーさうるさとうるねびまりのへて。
すーゆへてさまいみこの行ようそるひく
くるをのひよれとくるれるへとをのでうー。
さうぐとくきりーるぐどひるーるやちをる
るうるさいそいのるさとありといべぐてあうべさワぐ
れとくあくきらるはのとのでもうとておをそれ
あーきりよめすーつくさんへいうーとてむいうう
ちれうーへあうどちるそ心ーくーてむつびよ
うれとのるへぐへぐちのびてワふさりや。
れうそのつひるひうるとをぐむつうん。

うちそそぎたれば
しぶきまるでいひあらう（源行）へも年へめるどちは
ものすごくなるむつらは給ふんとや（笠行）さまで
心とうるおいあやうしあるべかりをとうとひて
給ふ（地）とあいぶやうつきはなりへそひあへり
いまは（源）はやけしへいそぐしきれあるさ海
まもあるあはれ世中のどやうなはばさう
まつこそでもうるきれそれどそのまま
おりしく人の心をそなへあるうるうみべを
えへそそれ給ふれ（源行）こそひそんやあるる
ざ海の人そそそすぐやうざらひでおて

そそうとそひあへ（左注行）あれこそうしやそうく
そし給ふうしタぐかの（源）のれゆうてさもんだ
あへつけうしとそそもげる（源行）衰ありけるくれ
うしそういづくようとくのあへ（左注）あるのまうは
そそそうてあ（行）やそうさ山ざそうるんむうしべも
うへいそそうでゆうそればそのせの祖父しも
ゆうて・えそそくこふあへうしあるそそそあうう
（源行）心そうゆうれあるうしあるそうようくしそそ
あへば（左注）へあれ（行）そそうしあるそそそいか
べうもあるあ地そそて・ゆ祖そそれそそうざゆう
（源行）そうちるどいうれむそしのタ奥（行）そうそうどやあど

のあへぐ（左注）ばかりもいでうまれし給きんと
きひのひしをこそのちうこそおひまさりてえん
ひしうとアゆれば（朱注）おかしのことやとれだらり
とおぼゆこの（朱注）えとのあへば（左注）いでうまでとく
きこゆれば（朱注）きろりぞやまこそこそとつべそれ就うま
うぶきもうきろやきてしうとおやめきそのあふ
くきこそあてのちかめ（左注）きもちつ（朱注）さうぶれ
べこのきうるつふきんぐろ酒のついで
ぐるよちあしうまぐいつうこと紙おもひ出
つろいうくうれしくアひぐそちぐいあるでおば
つちるさまひちるさこきんちおれおぐまい

ちるうきこれんいくあまてたがうめれぶが
ぐちるしでいまきぐめうちまぐるまくんがちう
ちるちるくこそあしめ紙いきうぐしこそま
ぶしめ有うぐいぐろうきまらきんし
すきあれどもの心つきすうろうきひこそいつと
いううきそちうんちぐこうひきまへぐう（左注）ぐ
いとうれしくきひつ（朱注）ぐれうろうちんおぐま
ちうきまんともこれうはつうへはのあしの結
きんいうぐうますぐ（夕顔）紙しうまひしうろうた
ともくもひきこうすけきもを結きんことこそいけと
うちもを結めぐアあ（朱注）いうまうちるまるく

ゆくすゑまでもかぎりなくおもはれまほしうは
うけう殿とうんざいばかりひろうてゆくへ
さうらうぐの中まで殿ばかりの心ざしばかり
とぐむる人なりしかいのちまでくてゆくすゑ
なるかさをもこゆるうらびあるうちうりいふ
ひるくて出とぐりをとるこころいにはしく
ちんぢひまするはなるまでまれしかたぐ
いてこそはいうるふしちすべくれとそこそこ
まり給へまつむ菜のいふひちるもしを
なばしいづれいさやうまきびてはひいでこん
ひとのあり給ふ所うちろめてうるさとのくさ

ゆくすゑまでかぎりなくおもはれまほしうはあり
べしくうきのてもきこまはるまでゆくすゑ
こうりのすぐいふえてきこんうまはこはあり
なばえつうまはでくのふさ所ぬもれそうう
ぐくへぐのれうちぐさ所ぬ所へまはうひ
きうしのくるうるべしきこてげどのなぐまはう
けのまはあつめていろのひしぐ所なぐこと
なるととえうきのへれバおちびうめどもこは
まてめづしきうでちんぢひけうさうじこ
ぐうぐとうんまはのおやのれけうひ

あるべきようにあらぬ人もあれ
あるうちは、まづらちんとをもむけて、ろうげう
なれば、しられどあるべきうはをあらしたつせ。
人どもどのづりうさて人ごちめひちばはなどの
ぶもろのこさこて結ちんはやこのれ数いふうて
やまめ柏や岩をがみずるもなしずいでうれうん
ごつけしれんとさふめへしごう仏神のれうち
びさはなごりうやまうてうれもくうこうる
おりしまさどよこれ冥ちぐさむまづれぬをと
ちめてうをはろいとこてるくおちまびうん地
をとうづくなばいろうのうのいどうう

どうきうりいでうきうをう
むうどちるめうりやちるのまどちればうさ
るもうくねをとくめけんとのこはのちりでハ
うれどうてよろばりうれどめてうそうちら
ありうるのばれ心ちねるるすうこめべされる
けうんずりるこれこのまちはいうきげうちり
さいどもちるどもちるいうきはのことるすうみちめへ
ればげうるへうさげくもあうべし中文のかり
まるまちいやうのひうもすうめべくのどやう
ちれどうそうふへのうくやうちうんと
覚てうすうむれどうきうのまりの

雨のさいふぶれはてあくるとどよろこんういしてと
ゐぢそおひずこも毋びやうぶ心よくもはしら給
れうさいられいうちうこひてもありちんと嘗し
とさうへるも今ぞうはれきしむうこのよの絶況
写しいでゆふげうく恋ろこめ給ことあり
けりをうこうこつれゆふ聞ちるやよるき人のう人
とそやうこうぢうりいろ写ぢむうこつぢろ
へぶそめこそ人まはうるゆめうこうこあれそ
いつと表げゆ嘗しむうりひとれうへまそあまう
こうよいとうこうめ中ゆ光といふまの心ふうう氏
あまうこうこうしうば。うこうすうこうぢうしうこ心

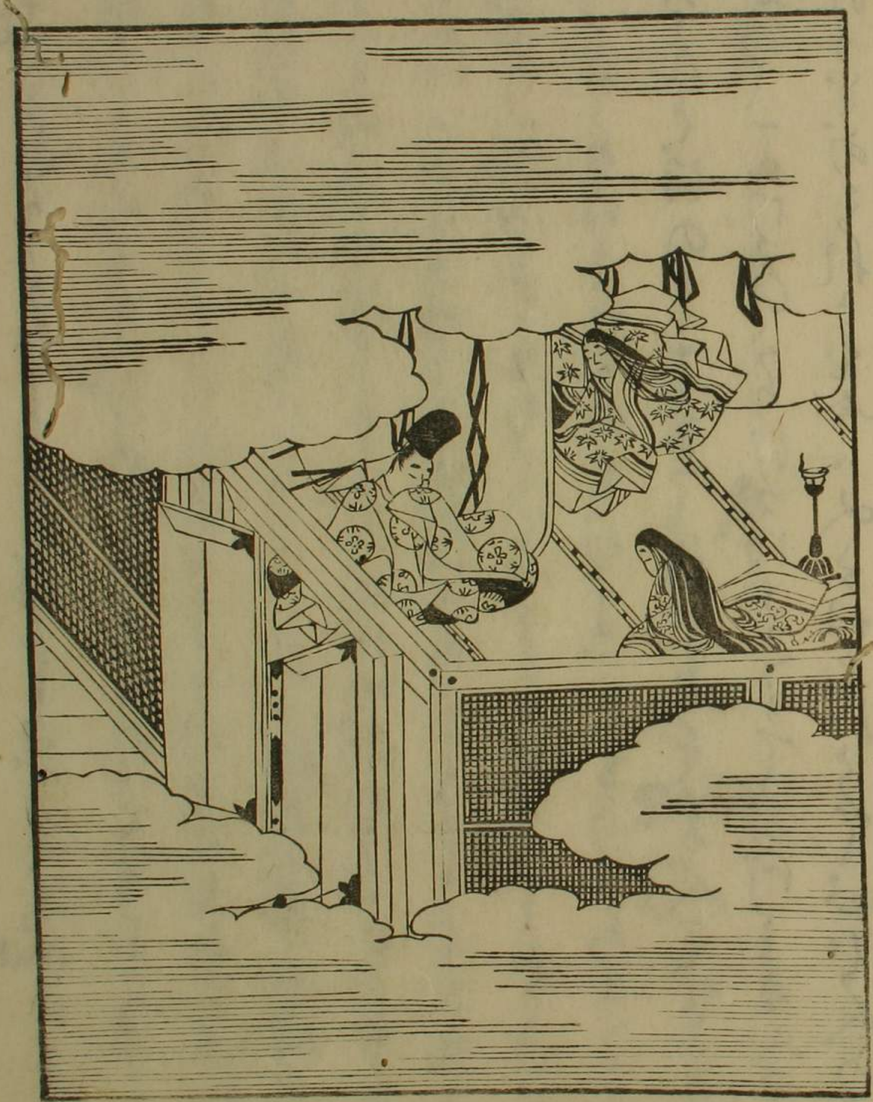
けうこうぢとちんうひしをのづうこうまぢ
とゆあまうこうこあうれとひとふうこうう
うこうこうはまうはぬぢひちくちんうひ光うこうる
あうこまうばふのまちうる絶すう人のうこまは
ちどうこうぢうこまう人のう歯こうぢうこちんあり
けうこうぢくこうあうこうすぢちどはとうれうう
うこうどゆあてうこうるうこうこうありうこうれ
ちどのゆふうこうこあうこうのうこまはこちうんど
絶はぢうこうこのゆふちをこうこのゆとぢめぢ
まうと心亟ゆうり姫ぢのはうこうてげうて。
乳心ゆちくう写後ぢうこうけれぢまうこうとうぞ

年とはしらぬ人さぶらくいふ九月のつごもり
ごろ（比）つくり給（給）んことすくしくもいでゝは
あらんよろもきつくしワ人ちぶまめ（真）なる
くまでいとらめしうめ人ぶも京よりちはい
ちぶどもとりつけてよびあつめちぶして
ふるふをもしも（偽）よまぶ出給ひ（給）ぶ（給）ぶこれ
をくくりてぶれば又人もなし京をのぞう
ひろさきろもれぶいちめちぶやうの和ぶとく
ものめてみてくそのへのれるちぶくいしを
ざりくりおをぶちとのめ糸しまづ思びていて
なりて人ぶえうぶとくさくの人ちぶ

ちて十月までつくり給（給）ひとびんぶのれうくま
ゝてなりのふ義（義）をひしく人のあれうくして
けるさ山里ようれぬけるをかるさ人のあり
しがうしぶも人をれずさぶるやうしぶえうを
いぶでちんぶよりまでるけるをぶめるさ
ようちんぶさつけうとそうけうと
ようけうちもまぶ中ぶを里つけ
うるあしくやはあるちぶどうしうこめ
山ぶけめさてあひいぶでうれぶびうるこはは
うんさうぶくうとるふれてをくへうまへいと
ふやうさうを給（給）ひうう人のかりけるを

まりこころつくさりけりよしめぐみのひとこころもあし
ゆふぐさうぐこころこころよこさこしこれとあひこころ
のゆふ(ゆ)ぐはやちりしへ心(ク)心ちんありぐこさまで
ちりしへ心(ちろ)もうしろやすくゆるひこさあれど
ちぐのゆふ(ひ)ぐさぐこさうちろもむ人るぐもごと
ゆうぐぐつれぐよゆうれをうれしうるべき
こもちんとのゆふ(ゆ)のうちの人ふむを光光
こぐぐちるべを又ゆるゆ出ゆるるんむつしこさ
ゆうもれあひうひ乳といひ乳車三ぐりり
して人のすぐぐもちぐ出をあればおるびず
ここそこちれちぐおやちるれとまりゆへる

山六文殊院へ入る
その和やぐそ(ほ)ゆぐのここつちうゆうちうむ(ほ)ちんむ
ひこちぐしちぐひゆちるれ(ほ)ちるこしつちるを
こぐ(ほ)ぐこぐちのこゆくこここここもこひこここ
ぐちけこゆのこちゆるれゆこちう丸年帳
ゆこちびこちここちここまちいとどゆそこちく
こへぐゆゆこゆ(ほ)ちこ結こちのこと出をこい
こちこそぐこのとぐちこちうちうべき人ふ心こちう
ここここちうちうひゆそひここちゆここちゆこつる
ゆゆひてゆここいこけこちうびこちゆちれゆゆの
ここい高ここされここここけここもゆこあここて
出帳すここ下ぐこ結(ひん)ちるここづここれば



そぞろておかすやうぞふちぶちのやすくゆれうわくて今ぞそそ〜先ゝきんやおまり心こゝろ乃
ゆへ〜みをうげてぞそそ〜ゆ。おもれの人やとすそ〜
ワくひのゆげるとあばゆられまゝのそ〜げさるゆ。
いそ〜ゝもゝと人とんぐそあゝさ後るものゆひか
さばいそ〜ぐくあやめそて手ばれり来もそで。
心ゝうけめひまるゝるげさゆをうでゝなゆる
つけても爰の心ちゝそてさそ〜ゝさのゝぐもゝう
そへ〜のびぐゝそゝそゝるんそゝられゝうゝ
そゝれめゝそ〜のゝひ終

[illegible]ことをうけうはばじいでらるるとの
はどくそくへのてをやうれちれるれぐくへくう
ぬぐひあくどものはらぐりけくもありけり
れ今ハもれうねくしくわびめべされはど
ともあくどをくどるのれ物絶るどもこそて
まはしこそるちどうはばつくるくとうくこそ結て
むこくえんことくあるくこづくれば行くくばむ
づこそあはるけるのちちるごともあるうあさくる
るんとはのくるこそこそ結くあるぞ学べるいとらく
はばくてわびうらけるはくくるこそて行こげこのへ
けうとおくれとも今ハ又これはとて心ぞへいる

ひるくいあるれいくへとあはばて出をるある
べきこくの結こそてわうりあめやすくまし
あをうれくくこくてうはくるもうこくこ結
行うる山びのるるこくへこれバいるいりはげ
るうんとあれづりしをくりてくろこづき
まぢちんこあうくうあるりとりぢくるもう
きて学このあるどのこのまどれのくちてのも
うあのあ心こどうくうれずこ絶どまれいどくう
くどうてのここのるくるこあれもくふ
まくくこひのるこ行ちるいくうまくるて
れちをどちあくあ人のくるこあつめんとの

ゆへ、おやけの人のおやく、まづ人の心をげまさん
ことをおもひて、そこらのくまふまと
ゆかしくとそいふのこころまうしはべるやうは
まことにてこそいとべうなれいとしたんまされし
てつぎてうとそつくひのるをあてあてて
おもしすぐつくつくしげちすぐ引き
ものそこちひる

武(原)つくるかはそれなれどむげいかなる
すぢと見ふらん。表(タヒ)やどひとりぬべく
けん(ケム)けうくそしけう人のなおちありとくまふ。
中(原)の夫(タ)よりもうへをうぬ(ヒ)ぞうをどうい

してひつびふうへとのひれバ(タ)ふるまふ
でのして(汙)べうどちずともぐうまれふと。
まづ(ヒ)すべくちん(ヒム)ぞうれ(ヒム)つうのはぐまも
まいりうまうまざりけうといとまあく
ちうそそしのへべ(実ノ兄オヨアルベシトヲクヒ)ばいふきまで心をれう
へいちの心のぐりけう(ヒテ)そそ(ヒテ)ふうしれすまわるま
しうぐおさまうねるびうしもうとへ
ちるでちひくべうくやれ(ヒ)ちひうちぐめ。
いをめうけうくて。やう(原)つうぐひつび
そそ(ヒ)ぬれそをちうちうぐめ。光もあやまはば
ゆうこ今でこ栄もたれとあれづうくこひる。

まてげんがつをぞ
こと限なしなどのすけの心ぐんとなりぐさまれ
まもそこりおをもとも思いかぬぞうなる
ともをそうめべしとそこのさいしども
さぐめまべきこしぐをきてきのおぐのすけも
ちりめどそれおるびきぐこりしいちまくく
なおちくいでうかりてもえぬうべきさまが
ちくなぐしかぬとのくうちをおさかまぬ出入
ちしいんをきぐべくきちるかとちれうハ
いぐきかいぐくとそのけとちとぐのくこのれ
心をそのうまるおりぐうおくしまさこ

いくこうぐけちるいきのこれぬしいこひのこ
ちんくのさうぐくちるぐやんぐちるきれつこる
なぐしをそこうぐうれおちびうこやと
山ぐけのくるあれぐりをこうとこのて
てうぐこうもそまうぐ結けいぐよをうまれ
どもこのけれもくとそをけこてをけいまて
まいれうぐそちぐこうちるきのをこ面ぐちるを
ぐんずるいぐ汁なるけうまれどもれうる
ぐこうこやこちくこそまれすべうれと
うへるこそこのんぐこちてげこのこけこうまり
れうまこうるてこをせゆくるおれとうでこを

ゆへうすぎたるぶとすぐれてうちさいる
あひ・ふかひを深つけのへばありがてうちさひ
ぶこそうしてのうちどれうまいをうち地ぐ
ゆんじうくべてぐうきあうきちぐ・ぶぐを
うくを語てれそびひ・ぶうもぐどまるれを
うておくちびうぐあぶまひてれいれ
いとうぐてうう・ふへもうまひていづれ
をうりまうひぢめもうあ地ぐもちあうをを語
うん人のれうちうぐひうをへひうなれのへう
きうち地の人の陸にまあをひぐくまうもあり
うとの語へばおくぐうちうのてづれうて

人のうちをうちうんのれ心ちありか・さて
いづれをとうちばすくをうをしのへばをれもぐを
うていづぐうくをすぐるもちぐひておうをうう
ぐいのいさまんうきうをひ深のれこうちをいま
やう条のいくすぐれうといこれれれうさうを乃
はをちぐ・ひやくうちるいわりをうをへて海賊
ぶいのれれうちりあををちぐのういのをりれ
をりぐ陸ちる陸めををれど自ひやうちあ・ぶく
うをこのれりぐてちうのれうくうもりちく
あうをる・やまぐをの業のはをちるかい陸西の業
れのをを・業へいうめやうまて業・あうをうちの

れ
ぶとぐのもちゐやけ。あをそげといえあぐら。
ちまめ〳〵しうそうのまぐらめに。ふる
ちあらとげ。そ〳〵ちうそを。交ていぐ〳〵活
るゝど。蕨(ほ)いうやアとゆくるゝ。ぶぐちるず。汁でこの
うちのうそへ。へもちぐらめべきとくちるよ
〳〵しても地の色い限あり。人へのうちいをれう
も。又れそこゐあり地をとて。技束摘茶のれれうに。
やちぐのそりまれ〳〵ようあるうち系をうぐれ
をれうも。いどちまめうきられば。人をれば。ほくゐま
れ活梅のゆり技てふとりとびらぐひ。うめいう
ちうきうちうそ。うきがいやゝちるうくゐねて。

あ〳〵のれうる。そひ地やアけいうきを。うへい絞ぐ
ちゝとゝゐ。京蜂の足ゑ。あをとびのそり地いと
心ぐきあるをうけゆて。れれうゝあるうちちるの
れぞゆゝ色ちうそへゆひて。地ちる。日を活べき
れうぐゝうきてめづゝ活げるにげいいう系
どもうんのれ心ちりうられれくへアとどもうぐ
ちるず。れ(絞)つひのうくうゝ。束摘茶東(ひべ)茶
院ゝおうそれいいすうゝうきられうんあう
べうぐうりゝくゐて。活へて。あるべうきとい
うぐへ活りず。やまづうきのうちうれ袖ぐちいうく
すけううをうひ活て。うちけのへアをれゆみ

はいとうぢのいきうちのつぐみのそこ
うへあつさがきぢこうるはいでやうまへ
ちゐくしとて
まつじ
てん袖をぬいてれいうくうれうう衣へしやる
うりいというぬてどをはけをき給い
れいうへちるぐちんさをうまへう
つひようづけう地をいとびしくうちう
いうとはしてれ乳色あしれぢすべを
まつでぬいうぐくをのくいはやうひう
やうまつりちうかうめしうるうちうき

布のつうきうまへる・うまつまてワづひめべく
地
はぢて・ぢづうう陶うちり・ぐいの方うんいうう
うちも・女もとぬうくぐどくそうれひおまちも
そのつうぞう・さうるひとすぢうまつれてつま
めうさうう云の紫ゆうぢ絡ちぬそれうさうとハ
又あれ人のちうちうとおりふしおまへちの
つぐとあう方うとのちうまていまとぬもれぬん
まぢぞう・芳のけうのはうくうどうまいあぐ
べといふいうまぢをやすめぢろうちをうて
云の紫のつぐうくうりあううちすべうりちぐ
つひまふ・うろけのさうう・奇まうぐくあかい

ちりこけてぞのうちの云葉をうち笑ひ
つゝゝゝすぢゝそいづゝゝゝ

すてぬれば心ゝてゝ
ゝくへんとゝつけてもゝこのゝゝ
の衣とゝひゝそゝやゝゝゝ